長年の願いであった　柴又「帝釈天」を訪れて

自称「隠れ寅さんファン」で、１０年前に寅さん映画２８巻のセットを購入したほど（HP「雑学 BN」の随想等関係（Ⅰ）、2001.12.24.「寅さんシリーズ、映破！」: 参照）。
それだけに一度は葛飾・柴又の帝釈天を訪ねたいと長年思っていたが、去年の大晦日にその願いが叶った。

帝釈天の参道の両側の商店の並びもそう長くなかった。
また、映画ではその参道幅は結構ある印象だったが、実際には自家用車が一台通れるかどうか程の幅で、向かい合う家同士はそう大きな声を出さなくても話しができそうな感じであった（当然、参道は車両進入禁止であった）。
この地域や隣近所の関係性背景があるからこそ、柴又でのあの寅さんの人間関係があったのだなあと、柴又・帝釈天をロケ地に選んだ監督の目の付け所に感じ入った。
もちろん、一作から四作まで寅さんの実家として撮影された「とらや」で「草だんご」を食べてきた(^_^;)

帝釈天は、映画では門、鐘楼、帝釈堂が印象に残っているが、実際には境内には他にも色んな建物があって広いのには驚き、「御前様」がいる雰囲気がピッタリ！
帝釈天の裏の江戸川堤側に寅さん記念館があり、もちろん訪ねた。
館内では、「くるまや」のセットをはじめ、実物資料や模型や映像で「男はつらいよ」と寅さんの世界を味えた。
もちろんあの居間のセットをバックに「タコ社長」よく座っていた上がり台に座って記念写真をパチリ(^_^)v
寅さんが柴又に帰ってきてよく寝ころんでいた江戸川の堤からは「矢切の渡し」が直ぐ側にあった。

以前当ＨＰ記事「『寅さんと日本人』を読んで（HP「雑学 BN」の書籍等読後感関係（Ⅱ）、2005.09.14.：参照）」の中で、寅さん映画シリーズに描かれているような「『人間を相対主義的に理解する必要性は、文明間の対立を解消するためにも、今後おそらく広く世界に受け入れられるに違いない。』との記述に、なぜかほっとするし、また、勇気づけられる。」と書いたが、今回実際に帝釈天を訪ねて、その感を更に強くした。

昨年の大晦日に帝釈天を訪ねる長年の願いが叶ったように、 今年の初詣のおみくじは「大吉」だったので今年はどの願いが叶うのかなぁ～(^_^)/~

阿部幸泰　　（2011 年 1 月 12 日　記）